

平成25年度事務事業評価シート

◎基本情報

事務事業名	国際・国内交流推進事業		担当部署	市民環境部 文化交流推進課(室)	
総合計画体系			根拠法令 計画など		
基本政策(大項目)	1	うきうき活力と魅力あふれるまちづくり	事業期間	開始	昭和 ▼ 49 年度
政策(中項目)	2	伝えたい 魅力あふれるまち なんと			
(小項目)		国際・国内交流			
施策	2	国際・国内交流の推進		終期	未定 ▼
基本事業	1	交流のひとつづくり			

◎事業概要(PLAN)

事業対象	誰(何)を対象にしているか	<input checked="" type="checkbox"/> 個人 <input checked="" type="checkbox"/> 世帯 <input checked="" type="checkbox"/> 団体 <input type="checkbox"/> その他 <input type="checkbox"/> 内部管理 鳴門市民及び各姉妹都市関係市民														
事業目標	対象をどのような状態にしたい(目指す)のか	鳴門市と姉妹都市の交流を推進することで、市民同士の相互理解・国際理解を深め、両市の友好関係を強化することを目指す。														
成果目標	事業目標の達成度合	<table border="1"> <thead> <tr> <th>指標名</th> <th>23年度</th> <th>24年度</th> <th>25年度</th> <th>26年度</th> <th>27年度</th> <th>単位</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>使節団新規参加者の割合 リュ市／鳴門市</td> <td>54</td> <td>55</td> <td>55</td> <td>55</td> <td>57</td> <td>%</td> </tr> </tbody> </table>	指標名	23年度	24年度	25年度	26年度	27年度	単位	使節団新規参加者の割合 リュ市／鳴門市	54	55	55	55	57	%
指標名	23年度	24年度	25年度	26年度	27年度	単位										
使節団新規参加者の割合 リュ市／鳴門市	54	55	55	55	57	%										

◎実施結果(DO)

事業実施内容	24年度は目標を達成するため、手段としてどのような活動を行ったのか	第19回リュネブルク市親善使節団(コレ副市長団長以下18人)が来鳴。多くの市民が使節団員と交流できるように、初めて市民主催による歓迎昼食会を開催した。また、市民との協働でコスモス交流やお茶会、事業所の見学、日独絵画グループの作品展示などの歓迎行事を行った。 また、国民文化祭事業の一環として、ドイツの民族舞踊団体とバンドによる「世界の踊りフェスタinドイツ館」を実施したほか、ドイツ語講座や中国語講座を開催し、市民の国際理解を深める機会を創出した。																					
事業実施手法	<input checked="" type="checkbox"/> 市実施 <input type="checkbox"/> 一部委託 <input type="checkbox"/> 委託 <input type="checkbox"/> 補助金 <input type="checkbox"/> その他																						
活動指標	<table border="1"> <thead> <tr> <th>指標名</th> <th>23年度実績</th> <th>24年度実績</th> <th>25年度目標</th> <th>26年度目標</th> <th>27年度目標</th> <th>単位</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1 親善使節団参加者数 リュ市／鳴門市</td> <td>26</td> <td>18</td> <td>38</td> <td>18</td> <td>40</td> <td>人</td> </tr> <tr> <td>2 使節団への学生の参加者数 リュ市／鳴門市</td> <td>2</td> <td>1</td> <td>8</td> <td>1</td> <td>10</td> <td>人</td> </tr> </tbody> </table>	指標名	23年度実績	24年度実績	25年度目標	26年度目標	27年度目標	単位	1 親善使節団参加者数 リュ市／鳴門市	26	18	38	18	40	人	2 使節団への学生の参加者数 リュ市／鳴門市	2	1	8	1	10	人	
指標名	23年度実績	24年度実績	25年度目標	26年度目標	27年度目標	単位																	
1 親善使節団参加者数 リュ市／鳴門市	26	18	38	18	40	人																	
2 使節団への学生の参加者数 リュ市／鳴門市	2	1	8	1	10	人																	
成果指標	使節団新規参加者の割合 リュ市／鳴門市	54	55	-	-	-	%																
	目標達成率(実績/目標)		100.0	-	-	-	%																

コスト分析		23年度実績	24年度実績	25年度	26年度	27年度	単位
事業費 (財源内訳の合計)		1,420	957	3,031	-	-	千円
財源内訳	国	0	0	0			
	県	0	0	0			
	地方債	0	0	0			
	その他	0	0	200			
	一般財源	1,420	957	2,831			
事業にかかる人件費 (人件費内訳の合計)		10,082	10,082	10,082	10,082	10,082	人
人件費内訳	正規職員(6,721千円/人)	1.5	1.5	1.5	1.5	1.5	
	臨時職員等(2,023千円/人)						
総事業費 (事業費と事業にかかる人件費の合計)		11,502	11,039	13,113	-	-	千円

【事務事業名：国際・国内交流推進事業】

◎平成25年の実施状況(DO)

現在の実施状況	平成25年8月に第20回鳴門市姉妹都市親善使節団を派遣するため、計画を進めている。今年度新設の青少年派遣事業については、中学生2年生から高校3年生までの8人に、旅費の約半額を助成し、ドイツに派遣するとして募集したところ、20人の応募があり、提出書類及び面接により8人を選出した。派遣まで4回の事前研修を行い、現地でのホームステイや学校訪問等の公式事業に備える。
---------	--

◎項目別評価(CHECK)

事務事業の評価	1.必要性の評価		理由等所見欄
	6	<input checked="" type="checkbox"/> ① 廃止した場合に支障が出る。	歴史的背景を基に生まれた姉妹都市交流であり、多くの成果も残していることから、今後も未永く継続する必要がある。
		<input checked="" type="checkbox"/> ② 施策 国際・国内交流の推進 の達成につながる事業である。	
		<input checked="" type="checkbox"/> ③ 税金で実施するにふさわしい事業で、市民への説明責任も果たせる。	
		<input type="checkbox"/> ④ 市民の基本的な生活の維持・確保に必要不可欠な事業である。	
		<input type="checkbox"/> ⑤ 行政内部の管理上必要不可欠な事業である。	
	/10	<input type="checkbox"/> ⑥ 法令により実施することが義務づけられている事業である。	
	2.有効性の評価		理由等所見欄
	6	<input checked="" type="checkbox"/> ① 市民生活上の課題解決に貢献している。	事業対象者の参加がより多くなるよう、事業内容について工夫する必要がある。
		<input checked="" type="checkbox"/> ② 事業目標が達成できるような事業内容になっている。	
<input checked="" type="checkbox"/> ③ 事業対象は適切である。			
<input type="checkbox"/> ④ 成果目標が達成され、市民に具体的に説明できるような効果があがっている。			
<input type="checkbox"/> ⑤ 現在の事業費で、事業の見直しによる成果向上の余地はない。			
/10			
3.効率性の評価		理由等所見欄	
8	<input checked="" type="checkbox"/> ① 事業実施手法は適切である。		
	<input checked="" type="checkbox"/> ② 事業費を削減する余地はない。		
	<input checked="" type="checkbox"/> ③ 作業手順の改善などによる人件費削減の余地はない。		
	<input checked="" type="checkbox"/> ④ 受益者負担や補助金の割合に問題はない。		
	<input type="checkbox"/> ⑤ 効率性向上の余地はない。		
/10			

◎今後の方向性(ACTION)

課題	リユースブルク市との今後の交流について、両市の親善使節団はそれぞれまもなく20回を数え、両市が姉妹都市盟約を締結してから40年が経過しようとしている。この節目に、今後の姉妹都市交流をどのように進めていくのかを考える必要がある。現在、姉妹都市交流に積極的に参加している市民は高齢化が進んでおり、若い世代の交流参加が必要である。				
今後の方向性	1.廃止	2.要改善	3.現状維持	4.拡充	2
↓「廃止」・「要改善」・「拡充」の場合は以下の欄に記入してください。					
今後の改革案	実施予定時期	平成26年度	▼	月未定	▼
	どのように改革するのか	平成25年度に実施する青少年派遣事業の成果を検証し、次回以降の当事業について継続できるよう検討する。また、一般参加者の各回の使節団訪問には、テーマを設けるなどを検討したい。			